



北部檜山医師会  
今金町国保病院

## 川 岸 直 樹

2016年から17年にかけて半年ほど常勤で勤務し、今年2月まで月1回の診療をしておりましたが、今回は期限なしで赴任することになりました。高校卒業まで室蘭で過ごし、東北大学に進学したので、腰を落ち着けて北海道で暮らすのは、36年ぶりです。2016年までの大学勤務時代は、主に肝臓、胆道、膵臓、腹部臓器の移植に従事し、今年2月までは、腎不全、腎臓移植を主に診ておりました。

もともと、最終的には北海道に戻って地域医療を考えていました。高校の生物の先生が天売島に赴任したことがあったのと、ドキュメンタリー番組などを見ていて、離島で200人ほどの住民全部を一人で診ることに憧れを持った時期もありました。信頼関係を構築した後、全島民のゲノム解析をして、出入りの少ない社会ではどのような特徴があるのか興味がありました。ただ、室蘭の両親のことがあり、天売島・焼尻島ではあまりにも遠方でしたので、道南の医師不足に困窮している地域を探しました。私が所属していた医局には、当然、道南に関連病院はなく、自分で北海道庁のwebサイトから探しました。シカゴの学会中に目星をつけ、帰国後成田から電話したのですが、事務長がびっくりしていたのを今でもよく覚えております。

今金で診療を始めてからは、頭の中から足の先まで、幅広く病気を考える「ドクターG」をモットーにしてきました。ただ、医師一人ができることには限界があり、「患者さん一人一人がいかに効率よく適切な医療を受けられるか」を模索し、自問自答する毎日です。私は、大学生活が長かったこともあり、「無駄な」ものを含めると専門医、指導医などを12持つておりました。しかし、地域医療に貢献できる、「肝臓」「消化器病」「病院総合診療」「がん治療」<sup>1)</sup>などに集約しました。住民の専門医志向は少なからずあり、「今金でできるもの」と「専門病院へ行くべきもの」に線を引いて診療しています。これまで、十数名のウイルス性肝炎<sup>2)</sup>、指定難病の肝臓病患者さんを当院で診てきました。人口あたりの有病率からすると、まだ未治療の患者さんもいるはずなので、今後も最新治療の研鑽を積んでいきたいと考えています。

当院のような常勤医3名の病院で問題となるのは、スタッフも含めた救急体制の維持です。2年前

に、当院での救急医療の現状を報告しましたが<sup>3)</sup>、札幌医大、他院からの応援医師により、過労死を出さずにギリギリで運営している状態です。昨今「働き方改革」なるものが謳われていますが、当院の医師には無縁のものです。AIを利用した医療補助システムを、工学部と連携し模索することを考えていますが、喫緊にはできません。東北地方に比べると、圧倒的に「コンビニ受診」の少ない地域であると前回勤務時から感じておりますが、住民の方々には不要不急の受診は控えるよう、広報でもお願いしています。

前回勤務時にもしていたのですが、一般の方々向けに「病気と健康」についての講演会を定期的で開催しています。専門領域にとどまらず、幅広くお話しすることで、予防医学、健診、自己管理の重要性を理解していただくよう努めています。また、当地域では高齢者の栄養失調による貧血、肺炎が多く見受けられます。当院では、4職種研修を終えたNSTチームが、今夏にも発足します。保険点数も取れることでスタッフの意識も上がりますし、何より栄養をつけてもらって、病気になる方が一人でも減ることを期待しています。

私の家族は4人ですが、妻（室蘭生まれ）は仙台でバリバリ働いておりますし、留学時代ストックホルムで生まれた長女、ピッツバーグで生まれた長男は、成人し東京方面です。80代の両親は、70年近く室蘭に住んでおりますので、そのまま居てもらっています。ということで、今金には単身赴任で生活していますが、週に2～3回は当直で、週末は室蘭か仙台に居りますので、官舎での家事はほとんどしていません。また、ユーラップ岳、狩場山を眺めながら河川敷でウオーキングをしていますし、休肝日が週に2～3日ありますので、これまでになく健康です。

北海道弁や、北海道地元局のローカルニュースを毎日聞くことにまだ慣れていませんが、地元に戻ったという喜びを噛み締めながら、この地域の医療を支えていきたいと思っています。

### 文献

- 1) 川岸直樹、原田猛、楯秀貞：遠隔地小規模病院で緩和医療をおこなった直腸GIST術後Trousseau症候群の1例。日本病院総合診療医学会雑誌. 13 (2) :16-20, 2017
- 2) 川岸直樹、原田猛、楯秀貞：今金町国保病院におけるC型肝炎、B型肝炎に対する経口薬による治療。地域医療. 55 (2) :102-105, 2017
- 3) 川岸直樹、原田猛、楯秀貞：今金町国保病院における救急搬送受け入れ状況：道南ドクターヘリ運用前後4年間の検討。日本病院総合診療医学会雑誌. 13 (2) :29-33, 2017